

[VERIFIED FACTS ONLY: 一次情報に基づく客観的検証]

旭化成によるPatlytics活用に関する調査報告書

The Enterprise IP-AI Intelligence Dossier

TARGET AUDIENCE: IP STRATEGY LEADERS, DX EXECUTIVES, LEGAL-TECH INVESTORS

The Bottom Line: 導入の事実は確認済、 主目的は「侵害調査の高速化」

導入の事実 (Verified)

旭化成によるPatlyticsの導入は「事実」である。

Patlytics公式の顧客事例、LinkedIn投稿、および2026年Series B資金調達発表 (Business Wire) の一次情報によって明確に裏付けられている。

中核的ユースケース (Verified)

Corporate IP division (Strategic Licensing Group) において、特許の「侵害調査 (Infringement Investigation)」および「Evidence of Use」の組成プロセスを数ヶ月から数時間へ劇的に短縮している。

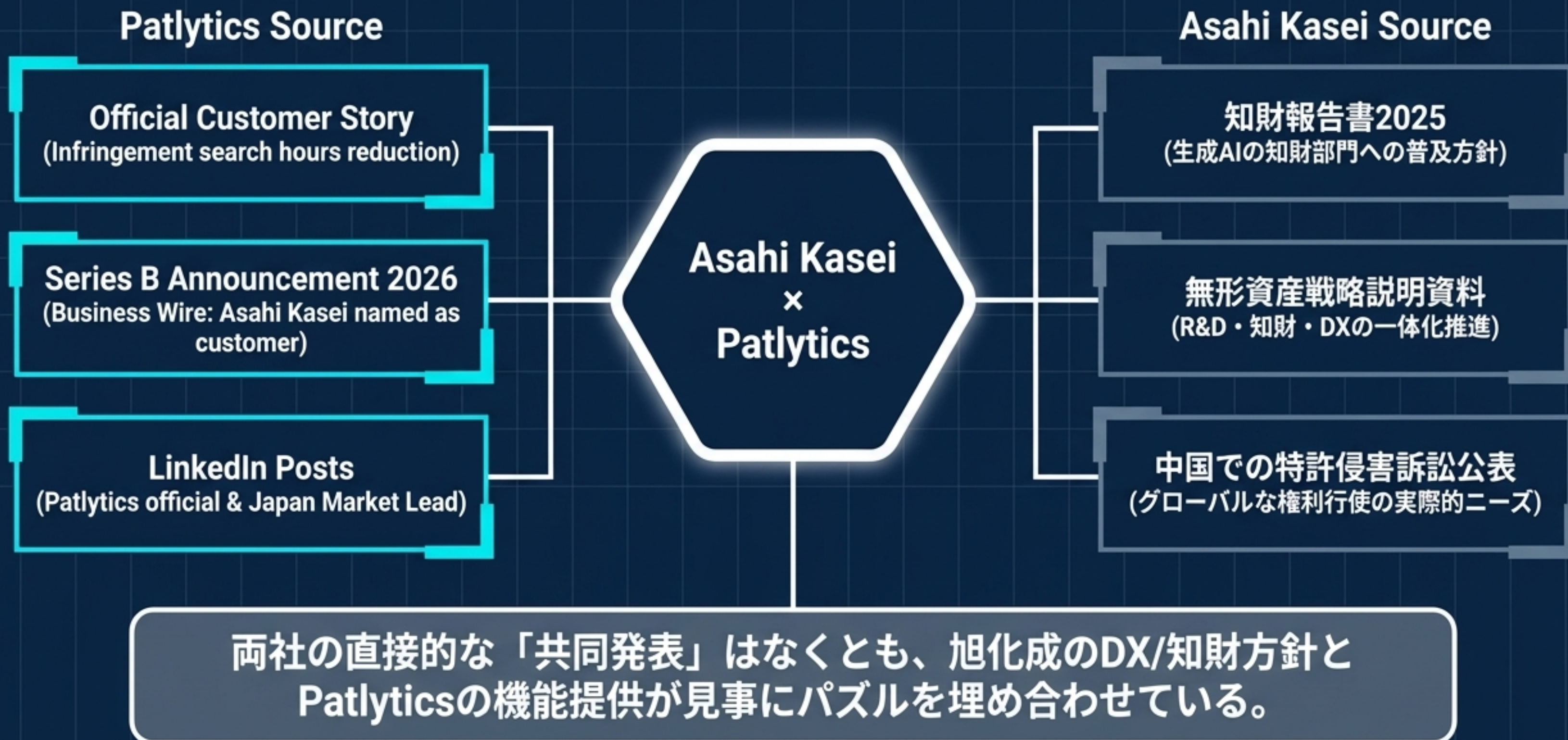
情報源の偏りに関する留意点 (Caution)

現時点で確認可能な情報は「ベンダー側 (Patlytics) の一次情報」に依存している。本調査範囲内において、旭化成側の公式プレスリリースによるベンダー名の明示発表は確認されていない。

Information Transparency Matrix: 公開情報の解像度診断

High Transparency (強力な一次情報あり)	Low Transparency (未公開・不明瞭)
利用部門 Corporate IP division / Strategic Licensing Group (堀直人氏)	公式発表 旭化成側からのPatlytics名を明示した単独プレスリリース
主要目的 潜在的侵害製品の特定と、クレーム・製品特徴のマッピング	価格体系と契約 契約額、利用席数、ライセンス単価、SLA
セキュリティ要件 クラウドSaaS環境、SOC 2 Type 2、ISO 27001準拠、 学習データへの非利用	システム構成詳細 既存のIPMSやドケットティングシステムとの具体的な連携名
ベンダー主張の効果 1レポートあたり\$1,000～\$5,000の節約	他部門への展開 R&D部門やマーケティング部門での本番利用の有無

Verification Map: 点在する一次情報と公式資料の統合



The Dual-Track Timeline: 戦略ニーズとソリューションの交差点

旭化成 (IP/DX戦略の深化)

2022年:
「知財インテリジェンス室」
設置、IPランドスケープ推進

2024年12月:
生成AIの全社的な活用拡
大を公式発表

2026年4月:
中国における特許侵害訴
訟の公表 (高度な権利行
使の裏付け)

合流点 (Intersection)

2026年初頭~:
公式顧客事例公開 /
Series B調達発表に
て「旭化成」を明記

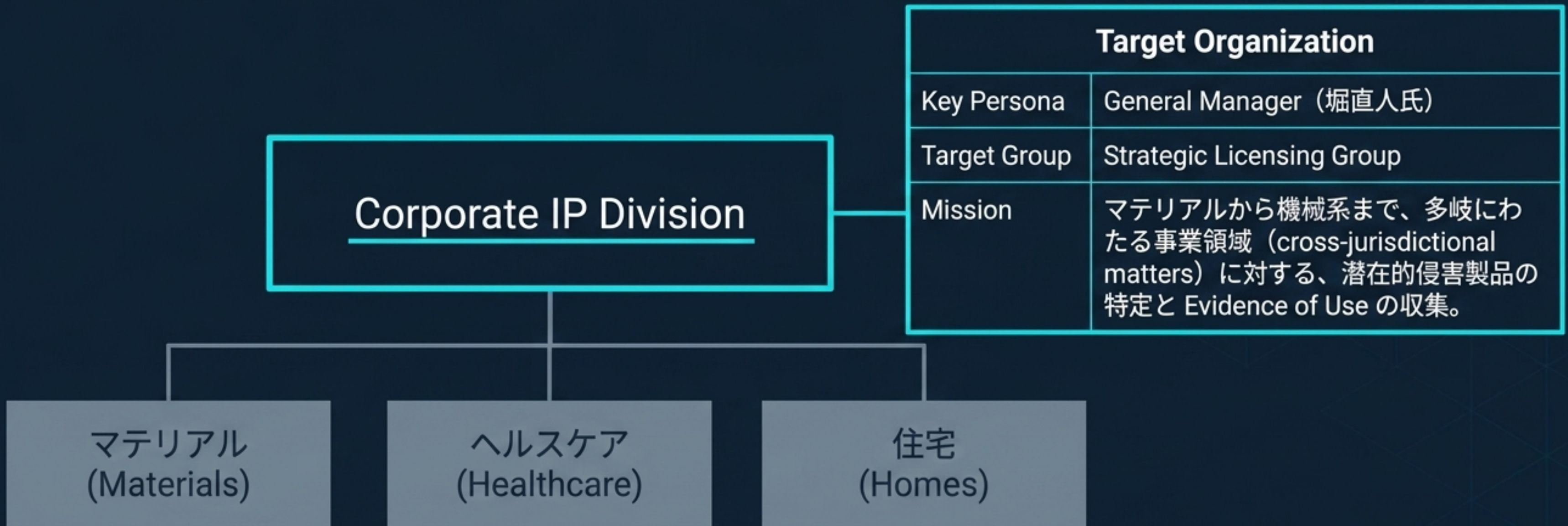
Patlytics (市場展開と機能拡張)

2024年4月:
TechCrunchによる
Seed調達報道

2025年2月:
Series A公表 (グロ
ーバル拡大と製品強
化)

2025年:
日本市場への参入開
始 (SNS示唆)

Target Deployment: 全社横断的IP戦略の中核を担う組織での導入

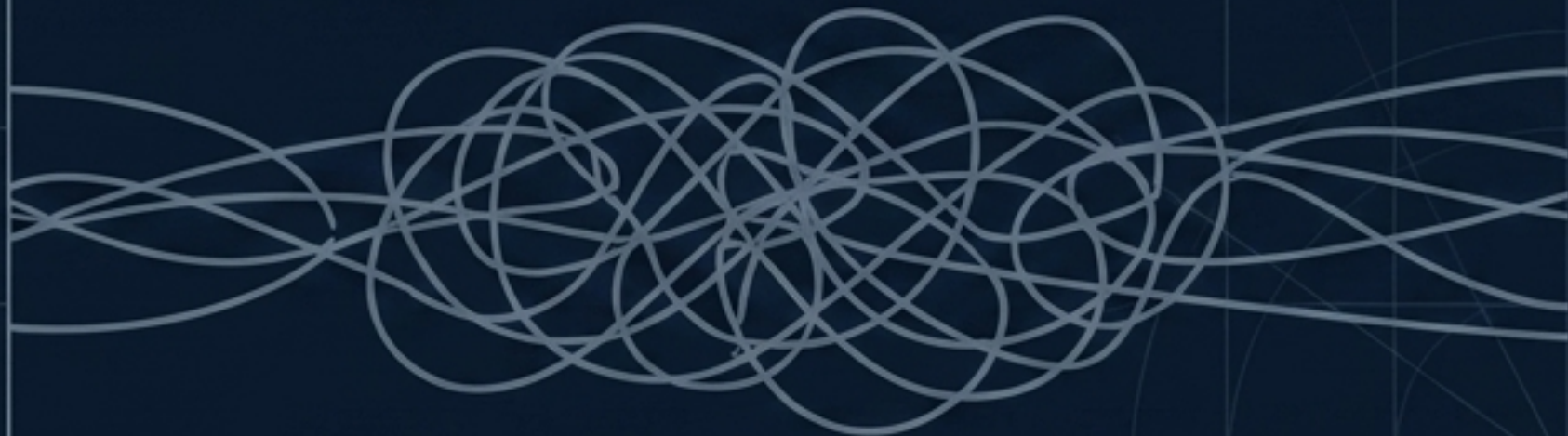


Insight: 公開情報から読み取れる主目的は、R&Dやマーケティングでの末端利用ではなく、全社のライセンス戦略・権利行使判断を支える「高度な意思決定支援(Intelligence Hub)」としての活用である。

Workflow Transformation:

「数ヶ月」から「数時間」へのパラダイムシフト

Before (Days/Months)



- 公開情報の手作業検索
- 複数データベース間のクロスリファレンス
- 反復的なマニュアルレビュー

After (Hours)



- 対象特許の入力
- 独自取得した「製品特徴情報」の追加投入 (Human-in-the-loop)
- Element-by-element / Claim-by-claim のマッピング自動生成

“Before using Patlytics, our infringement searches took several days, sometimes even months ... days or months now take just hours.”

Value & ROI Landscape: 侵害調査における経済的インパクト

Key Metrics (Patlytics公表値)

Time Reduction

数ヶ月 → 数時間

(Days/Months to Hours)

Cost Savings

\$1,000 ~ \$5,000

1件のDetection Reportあたりの節約

Efficiency

80% 削減

プロジェクト全体での時間削減 (Patlytics
全体顧客実績)

⚠ Caution

評価の留保: これらのKPIはベンダー (Patlytics) の公表値・顧客事例ベースであり、第三者機関によって監査された指標ではない。ただし、導入による劇的なプロセス短縮の事実自体は強く示唆されている。

Architecture & Security: エンタープライズ水準の機密性担保

Compliance Certifications

- SOC 2 Type 2
- ISO 27001 / ISO 42001



Data Protection Principles

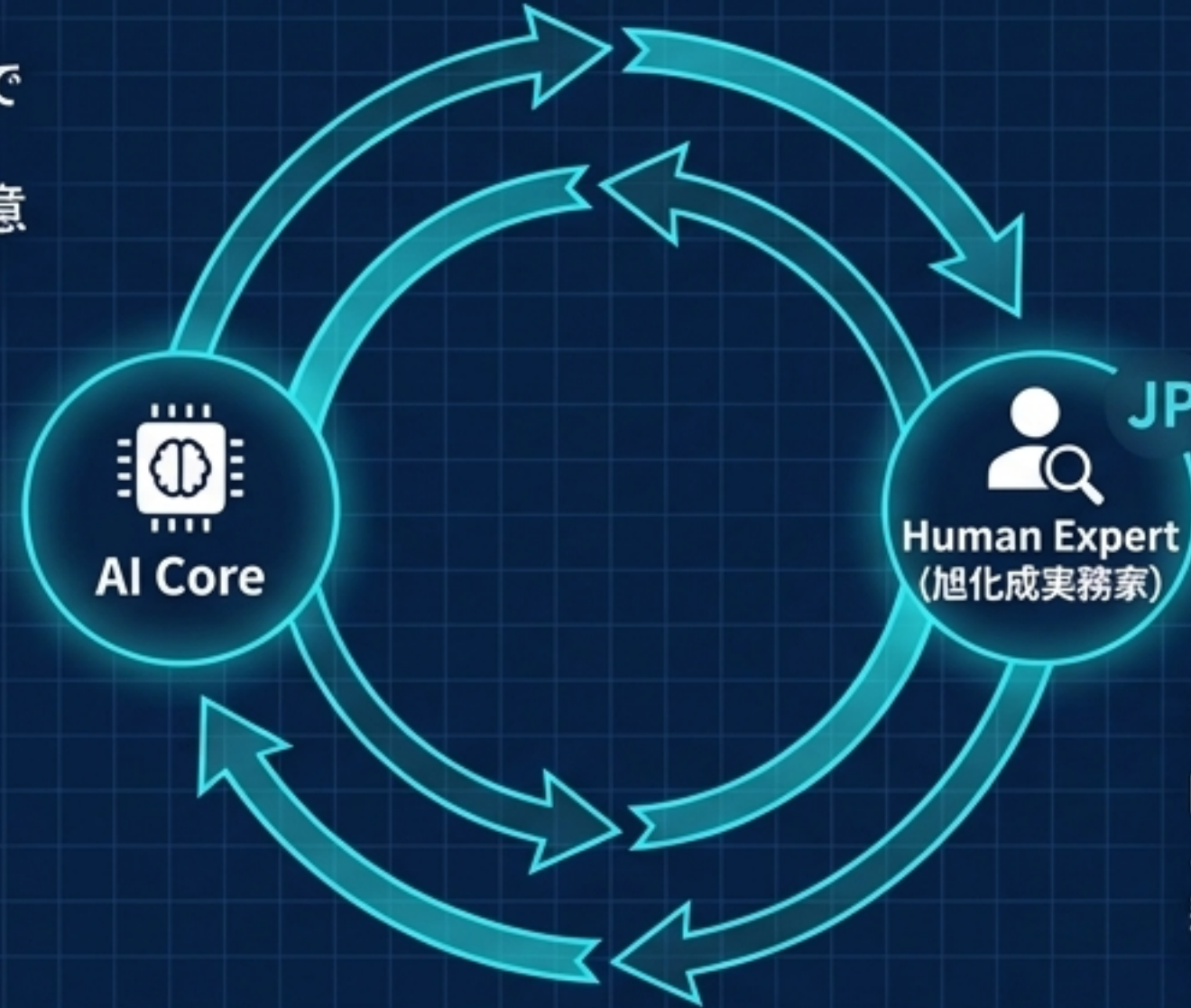
- 保存時および転送時のデータ暗号化
- 顧客データの厳格な分離 (Tenant Isolation)
- **Never used to train models** (機密データはAIモデルの学習には一切使用されない)

キーメッセージ：旭化成のような知財訴訟・ライセンスを重んじる企業が未公開発明を扱えるのは、この強固なデータ保護統制 (security evaluated early and confirmed) が存在するためである。

Localization & Human-in-the-Loop: 現場知見との融合

半自動化アプローチ

AIによる公開情報の単独クロールだけでなく、旭化成が社内で独自に得た「製品特徴情報」を追加投入し、探索面を意図的に広げる人間主導のワークフロー。

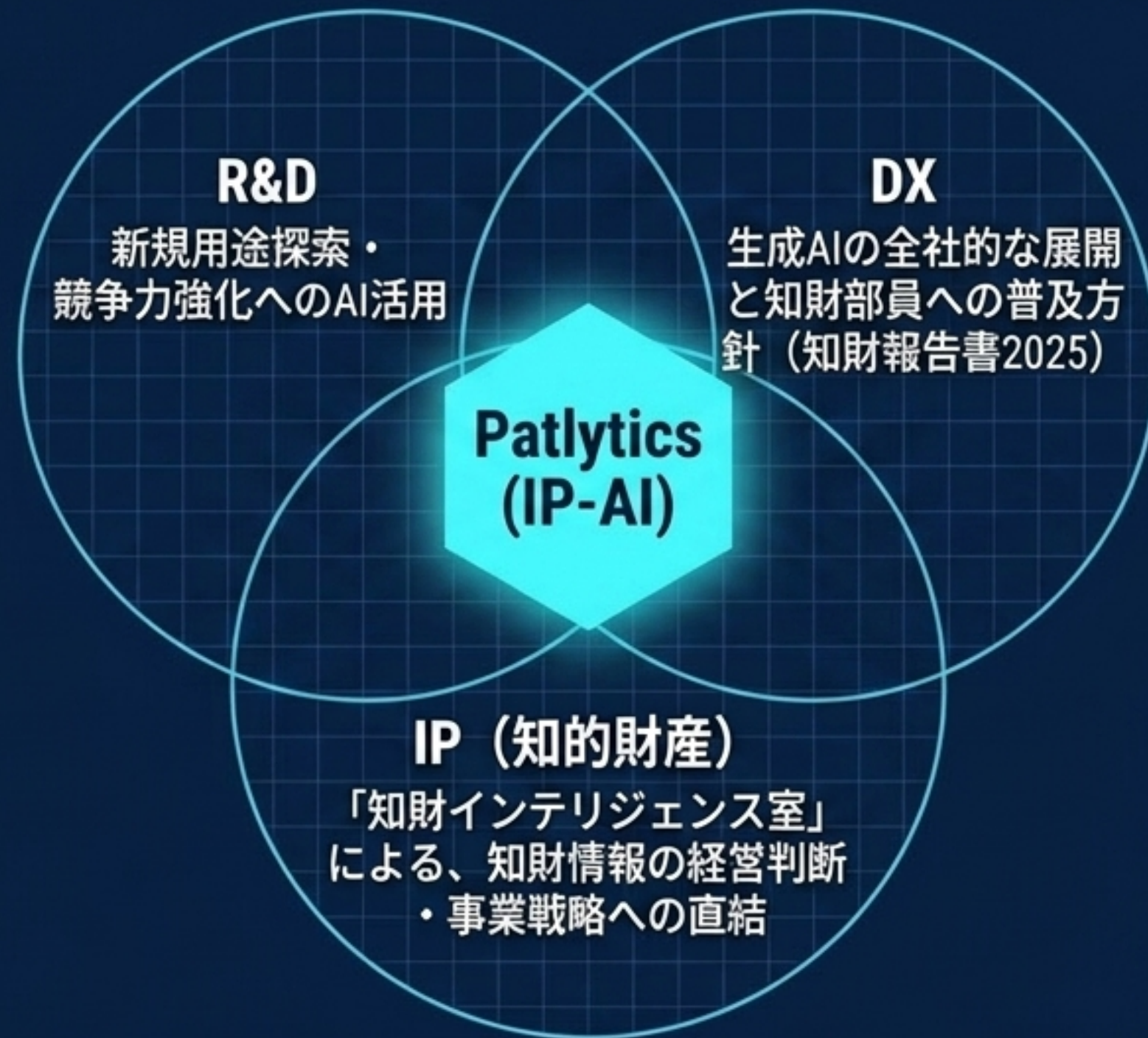


日本語環境への適応

Patlytics関係者 (Japan Market Lead等) による日本語でのドラフティング・分析機能の公表。日本の実務家からのフィードバックを取り込んだプラットフォームのローカライズ。

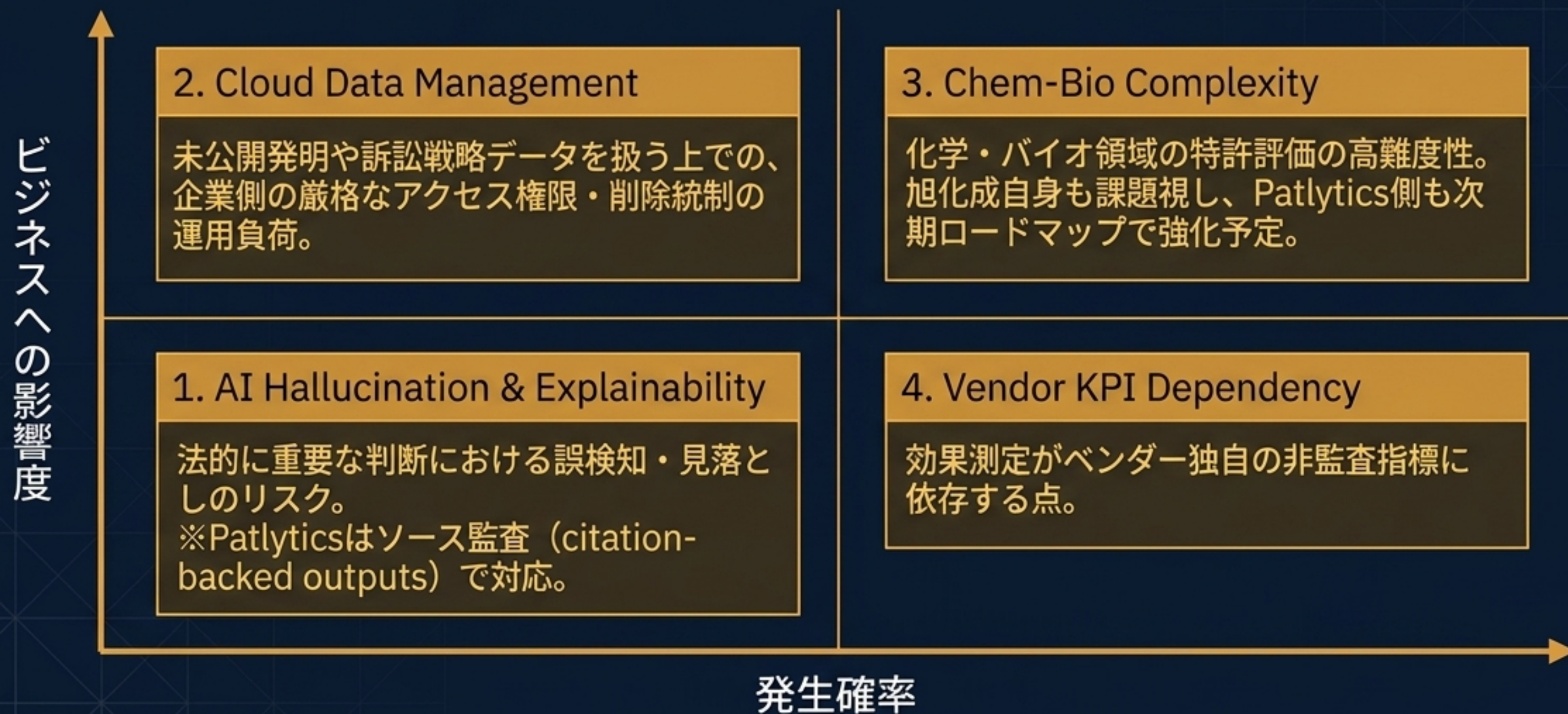
キーマッセージ： 単なる検索ツールではなく、**高スキル知財人材**が単純探索から「**戦略判断**」へシフトするための、**人間とAIのハイブリッド基盤**。

Strategic Alignment: 旭化成「無形資産戦略」との必然的な合致



キーマッセージ：Patlyticsの導入は単なる現場のツールテストではなく、旭化成が推進する「R&D・知財・DXの一体化」という大きな経営ベクトルに完全に合致した打ち手である。

Risk & Challenge Assessment: 本格展開へ向けた4つの課題



Future Roadmap: 侵害調査から統合プラットフォームへの拡張



キーマッセージ：公開情報上の本番稼働は「侵害調査」中心だが、旭化成の多角的な事業ニーズとPatlyticsのロードマップは特許ライフサイクル全般の支援へと向かっている。

Synthesis: The Blueprint for Enterprise IP-AI

旭化成×Patlyticsの事例が証明する、グローバル大企業が生成AIを知財実務へ本格稼働させるための3つの条件：

*The future of corporate IP is not AI replacing analysts,
but highly secure, localized AI augmenting human strategic intelligence.*

Pillar 1: Hyper-Focused Use Case (業務特化のユースケース)

漠然とした業務効率化ではなく、「**侵害調査**」という最も時間と専門性が要求される**高ROI領域**にターゲットを絞ること。

Pillar 2: Zero-Compromise Security (妥協なきデータ保護)

「**学習データ非利用**」の確約と**SOC 2 Type 2**等のエンタープライズ認証を前提としたクラウドアーキテクチャの選定。

Pillar 3: Human-Led Localization (現場主導の適応)

AIへの完全自動化（丸投げ）を避け、**社内の独自知見（未公開データ）**の掛け合わせと、**日本語実務環境**へのローカライズを徹底すること。